

阪南市協働事業評価シート

記入日 2024 年 2 月 22 日

阪南市協働事業提案制度を活用して協働で実施した事業について、成果と課題を広く共有するために、提起した視点で事業の評価を行ってください。

団 体 名	子ども NPO はらっぱ	(担当者名：殿井 幸代)
担当課名	生涯学習推進室	(担当者名：井上 真理)
事業名	放課後の子どもの居場所事業	
事業の実施期間	平成 26 年 (西暦 2014 年) 4 月 1 日～	
提案の区分	☒ 市民自由提案部門 ☐ 市設定テーマ部門	
協働の形態	☐ 協働委託 ☐ 実行委員会・協議会 ☒ その他 (事業委託)	
事業の年度	☐ 初年度 ☐ 継続 2 年目 ☐ 継続 3 年目 ☒ 継続複数年 (10 年目)	

1. 事業の概要

(1) 事業の目的 (事業を企画した課題、現状、背景についても記入してください)

子どもがあらひのままの自分でいられ、休息を取り戻し、自由に友だちとあそび、安心して人間関係を作りあうことができる「子どもの居場所」を定期的に地域に開設し、提供することを目的とする。

(2) 役割分担 (団体、事業担当課それぞれの役割を記入してください)

団 体	実施運営・広報チラシ作成
事業担当課	予算措置、委託契約、補助金申請、補助金実績報告、参加者への周知

(3) 事業費

団 体	0 円 費目を記入
市	579,600 円 (委託費 476,000 円、施設使用料 103,600 円)
合 計	579,600 円

初年度の事業費計	691,155 円	団体分担 131,155 円	市分担 560,000 円
7 年目の事業費計	452,954 円	団体分担 5,754 円	市分担 447,200 円
8 年目の事業費計	468,234 円	団体分担 29,034 円	市分担 439,200 円
9 年目の事業費計	540,829 円	団体分担 64,829 円	市分担 476,000 円

7 年目 R2、8 年目 R3、9 年目 R4

(4) 事業の内容

※名称・日時・場所・参加人数・内容・収益など具体的に記入してください。

※活動の写真や資料があれば、添付してください。

①名称	阪南市☆キッズはらっぱ
②開催日時	毎週月曜日・金曜日 午後3時30分～5時（夏季休業中は午後1時～5時） 毎月1回土曜日午後3～5時 夏季休業中の水曜日 午後1時～5時 土曜日午前10時～12時（不定期）
③開催場所	ふれ愛ホーム・東鳥取公民館・西鳥取公民館 尾崎小学校・朝日小学校・東鳥取小学校・下荘小学校・桃の木台小学校 サラダホール・貝掛中学校・地域交流館
④対象者	小中学生
⑤参加人数	子ども1077人 大人567名 合計1643名（内スタッフ279名）
⑥事業の内容	子どもがりのままの自分でいられ、休息を取り戻し、自由に友だちとあそび、安心して人間関係を作りあうことができる「子どもの居場所」を定期的に地域に開設し、提供する。
⑦収益	参加費無料（収益無し）
⑧その他	R5年度から必要となった公民館の施設使用料は、市が負担する。

(5) 事業に参加したのは想定した人たちでしたか。参加した人たちの反応はどのようなものでしたか。

※その人たちや組織に何らかの変容があれば、それも交えて記入してください。

・東鳥取公民館では、昨年度から参加していた子どもが引き続き参加していた。校区内にある東鳥取小学校の低学年の子どもたちが多く参加していた。校区外の子どもは保護者付き添いであそびにきていた。 ・夏季休業のみ開催の西鳥取公民館では、館の事情で予定していた部屋が使用できず、ホールを使用することになった。ホールだったので広く、今までできなかったあそびがのびのびとでき、あそびの幅が広がり子どもの参加も増えた。 ・全体では夏季休業限定の取り組みで、自動販売機の工作を実施した。最後まで一生懸命工作に取り組む子どもたちの、真剣な姿が印象的だった。 ・土曜日午後開設のふれ愛ホームでは昨年同様、土曜日午前に上荘小学校体育館で開催している子どもNPOはらっぱ自主事業の「あそぼうデイ」に参加のあと、午後のキッズはらっぱにも参加する子どもが多く、また中学生やボランティアの青年の参加もあった。 ・土曜日午前の小学校体育館開設を、今年度は開催校を増やしたことで、普段の会場に参加できない子どもたちの参加の機会ができ、中でも桃の木台小学校めでは子どもたちの参加が多く、貴重な時間と場の提供ができた。 またキッズはらっぱの周知につながり、関心を持ってくれる保護者が増えた。
・開催校の留守家庭児童会を利用している子どもが、支援員等の付き添いで参加していた。安心してあそびことができると支援員等からの声があった。 ・休日に校区外の子どもたちが交流できるように、サラダホールや地域交流館、地域教育協議会など地域のイベントでもキッズはらっぱを実施した。異年齢や校区を超えた交流の場となった。

(6) 協働で事業を進めるにあたり、工夫した点があれば、記入してください。

・市からは、大阪府から届く研修、安全管理マニュアル等の情報を提供した。 ・防災などの対策マニュアルの読み合わせなど、スタッフ間で情報を共有した。会場ではマニュアルに沿って対応、連絡先カードの回収も徹底して行うなど、子どもたちの感染防止に努めることができた。 ・毎月学校に案内チラシ「キッズカレンダー」を配布し、広報に努めた。
--

2. 協働事業の評価

・下記の評価項目について、それぞれの立場から評価してください。評価基準は5段階としてください。

- ・大変よくできた（５点）
- ・よくできた（４点）
- ・できた（３点）
- ・あまりできなかった（２点）
- ・できなかった（１点）
- ・評価項目として適当でない（N）

※「N」を選択した場合は、下記記述欄にその理由を記入してください。

（１）評価

	評 価 項 目		評価点		
			行政	団体	平均
事業実施前	1	協働で実施する事業の課題・背景や目的を両者で確認・共有しましたか。	3	3	3
	2	事業の到達目標を協議して設定しましたか。	3	3	3
	3	事業の計画書や工程表を協議して作成しましたか。	4	4	4
	4	事業を進めるための役割分担や責任を協議して決めましたか。	3	3	3
事業実施中	5	進捗管理、必要な情報を共有しましたか。	3	4	3.5
	6	状況の変化に応じて、協議しながら、柔軟な対応ができましたか。	4	4	4
	7	お互いの得意分野や人材・情報を活かし、協力しながら、事業を進めることができましたか。	4	4	4
事業実施後	8	設定した目標は達成できましたか。	4	4	4
	9	協働で事業に取り組んだことで、単独で実施するより、成果を上げることができましたか。	5	5	5
	10	責任の所在や役割分担は適切でしたか。	4	4	4
	11	事業には、当事者、関係者をはじめ、多様な人たちの参加を促すことができましたか。	3	3	3
	12	予算は妥当でしたか。	3	3	3
	13	事業を継続する場合、課題の解決策や今後の方針について、協議を行いましたか。	4	4	4
	14	協働事業に取り組むことによって、組織に何らかの変化をもたらしましたか。	4	4	4

「N（評価項目として適当でない）」を選択した場合は、その理由を記入してください。

番 号	理 由

（２）協働して良かったこと、どのようなことにメリットを感じたかなどを記入してください。

団体にとって	・会場の確保がスムーズにできる。 ・事業の周知方法として、「広報はんなん」への掲載や、毎月の案内チラシを公共施設に配架、公立小中学校への配布により、子どもたちの手に届けられる。 ・行政との協働事業によって保護者の安心感を得られる。 ・コーディネーター、スタッフ研修として、行政主催による講演会などに参加できる。
--------	--

行政 にとって	行政だけでは人材確保や財政面で事業展開が困難であり、協働で事業を行うことにより、市民、利用者ニーズ（放課後子どもたちが安心して遊べる居場所がない等）に合わせた事業展開を図ることができた。
市民 にとって	放課後や土曜日の子どもの居場所として、安心してあそべる場所ができた。

（３）協働して課題だと感じたこと、その改善点などを記入してください。

団体 にとって	- 行政との情報共有⇒なかなか時間が取れず、データ上での毎月の参加人数や子どものようすの報告で留まっている。 改善案として、コーディネーターと定期的に懇談を持ち、居場所で過ごす子どもたちのようすを伝え、また居場所に関して問題があれば何が課題なのかを情報共有しながら、解決できる方法などを一緒に考え、子どもたちが安心して過ごせるよりよい居場所にしていく。 - 学校との連携⇒居場所で過ごす子どもたちのようすやスタッフが子どもと接して気がかりな子どもがいた場合どうするか。 改善案として学校に相談などできるよう、関係を密にしていく。
行政 にとって	団体との情報共有⇒委託による事業実施のため、毎月の報告は受け取っているものの、コーディネーター等から直接話を聞く機会がほとんどない。 今後の改善策として、コーディネーターとの懇談や視察を行い、情報共有を密にし、よりよい事業となるように取り組む。
市民 にとって	放課後子どもたちが安心して遊べる居場所がない 等

（４）今後の具体的な展開 ※団体と事業担当課が話し合い、記載ください。

☐ 初年度の場合、今後も協働事業として実施する（☐ 提案事業継続 ☐ 提案事業以外）

☐ 終了する（その理由： _____ ）

☐ 市が単独で実施する（その理由： _____ ）

☐ 団体が単独で実施する（その理由： _____ ）

☒ その他（今後も協働事業として実施する。 _____ ）

■ 継続する場合

実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など、補足事項を記入してください。

- 居場所の視点から阪南市の子どもの現状を把握し、ニーズに合った居場所づくりへとつなげていき、安心、安全な居場所となるようにさらに充実を図る。そのためには、行政、学校、地域と連携し居場所への理解と協力を求め、阪南市の子どもたちの健やかな成長へとつなげていく。 - 阪南市のすべての子どもたちが、「キッズはらっぱ」を利用できるように、小学校区に１か所の子どもの居場所の設置が理想だが、人材確保の難しさ、子どもの居場所に適した場所がないなどの課題がある。 多くの人に子どもの居場所「キッズはらっぱ」の必要性を知ってもらうために、人材や場所の確保について引き続きアピールを行う。 また、土曜日午前の小学校開設を継続していくためにも、学校区の地域の方、保護者、学校（先生方）にも理解と協力を求める。 - 小中学校の子どもを持つ保護者からの声を聞き、今の子どもたちの現状や疑問、問題など課題は何か情報収集に努め居場所に活かし事業展開につなげる。

- ・財源については、国の新・放課後子どもプランに基づく放課後子ども教室推進事業として、大阪府教育コミュニティづくり推進事業補助金を受けており、対象経費を国・府・市において 1/3 ずつ負担している。今後も市の第2期阪南市子ども・子育て支援事業計画に基づき市において予算措置を行う予定である。

(5) その他

- ・放課後開催のキッズはらっぱに参加できない子どもたちに対し、土曜日など休日にキッズはらっぱを開催することにより、思いっきりあそべる場所を提供していきたい、また、留守家庭児童会と連携を取りながらより多くの子どもが利用できるように検討していきたい。
- ・放課後の子どもの居場所事業は市または団体で単独の実施は難しく、今後も継続させていくためには、協働での事業実施は不可欠である。子どもたちが健やかに過ごせるまちづくりへと繋げていくためにも双方の関係性をより深め協力し、事業の発展へと繋げていきたい。

阪南市協働事業評価シート

記入日 令和6年 2月26日

阪南市協働事業提案制度を活用して協働で実施した事業について、成果と課題を広く共有するために、提起した視点で事業の評価を行ってください。

団 体 名	阪南吹奏楽団	（担当者名： 寺島 達久 ）
担当課名	学校教育課	（担当者名： 深田 有紀恵 ）
事業名	阪南フレンドシップコンサート	
事業の実施期間	平成 26 年（西暦 2014 年）4月1 日～ 年（ 年） 月 日	
提案の区分	☒ 市民自由提案部門 ☐ 市設定テーマ部門	
協働の形態	☐ 協働委託 ☐ 実行委員会・協議会 ☐ その他（ ）	
事業の年度	☐ 初年度 ☐ 継続 2 年目 ☐ 継続 3 年目 ☒ 継続複数年（ 10 年目）	

1. 事業の概要

(1) 事業の目的（事業を企画した課題、現状、背景についても記入してください）

市内中学校の吹奏楽部への技術支援を通して、教育環境の活性化と青少年の健全育成を行う。文化センターでの大規模なコンサートだけではなく、地域や学校で現在行われている吹奏楽部のコンサートでの阪南吹奏楽団との合同演奏も視野にいれ、地域に根差した音楽のあるまちづくりを目指す。

(2) 役割分担（団体、事業担当課それぞれの役割を記入してください）

団 体	阪南吹奏楽団の団員を各中学校の吹奏楽部に派遣し、練習をともに行うことで、各中学校の部員の演奏技術の向上を図る。
事業担当課	各中学校に阪南吹奏楽団の団員を派遣する日程を調整する。

(3) 事業費

団 体	〇円 費目を記入
市	〇円 費目を記入((例)補助金、委託費 等)
合 計	〇円

初年度の事業費計	48,000 円	団体分担	0 円	市分担	48,000 円
8 年目の事業費計	0 円	団体分担	0 円	市分担	0 円
9 年目の事業費計	0 円	団体分担	0 円	市分担	0 円

10年目の事業費計	0円	団体分担	0円	市分担	0円
-----------	----	------	----	-----	----

(4) 事業の内容

※名称・日時・場所・参加人数・内容・収益など具体的に記入してください。

※活動の写真や資料があれば、添付してください。

①名称：パート指導・合奏指導・合同練習

②開催日時及び実施中学校
 4/17飯の峯中学校（合奏練習）・5/11飯の峯中学校（合奏練習）・5/16飯の峯中学校（合奏練習）
 5/20鳥取東中学校（パート及び合奏指導）・6/5飯の峯中学校（合奏練習）・6/12飯の峯中学校（合奏練習）
 ・6/15鳥取東中学校（パート及び合奏指導）・7/5飯の峯中学校（合奏練習）・7/8鳥取東中学校（パート及び合奏指導）
 ・7/14鳥取中学校（合奏練習）・7/23貝掛中学校（合奏指導）・12/8貝掛中学校（パート指導）・12/10貝掛中学校（合同練習）・1/26飯の峯中学校（合同練習）・3/9鳥取東中学校（合同練習）

※（）内のパート指導及び合奏指導は、阪南吹奏楽団の寺島氏が個人で指導、合同練習については、阪南吹奏楽団として実施。

③開催場所：市内中学校吹奏楽部の校舎内

④対象者： 中学校吹奏楽部員と阪南吹奏楽団員

⑤参加人数：各中学校の吹奏楽部員・阪南吹奏楽団の寺島氏及び阪南吹奏楽団15名程度

⑥事業の内容：各楽器の基本練習および合奏練習

⑦収 益：ボランティア活動につき収益はなし

⑧その他：なし

(5) 事業に参加したのは想定した人たちでしたか。参加した人たちの反応はどのようなものでしたか。

※その人たちや組織に何らかの変容があれば、それも交えて記入してください。

市内の中学生への技術指導により吹奏楽部員の演奏技術の向上心を培うことができた。
 鳥取東中学校は、令和5年度の吹奏楽コンクール南地区大会では金賞を受賞した。
 貝掛中学校は、令和5年度の吹奏楽コンクール南地区大会では金賞を受賞し上位大会へ推薦をされた。
 また、年明けに開催されたソロコンテストでは多数の生徒が金賞を受賞し、内1名は上位大会への推薦をもらうことができた。

(6) 協働で事業を進めるにあたり、工夫した点があれば、記入してください。

中学生にわかりやすく指導するために、団員に当日は楽器を持参してもらい、実際に演奏を聴いてもらいながら中学生に技術指導を行った。
 各楽器の団員に参加してもらうように団内への告知を徹底した。

2. 協働事業の評価

- ・下記の評価項目について、それぞれの立場から評価してください。評価基準は5段階としてください。
 - ・大変よくできた（5点）
 - ・よくできた（4点）
 - ・できた（3点）
 - ・あまりできなかった（2点）
 - ・できなかった（1点）
 - ・評価項目として適当でない（N）

※「N」を選択した場合は、下記記述欄にその理由を記入してください。

(1) 評価

	評価項目		評価点		
			行政	団体	平均
事業実施前	1	協働で実施する事業の課題・背景や目的を両者で確認・共有しましたか。	5	5	5
	2	事業の到達目標を協議して設定しましたか。	5	5	5
	3	事業の計画書や工程表を協議して作成しましたか。	5	5	5
	4	事業を進めるための役割分担や責任を協議して決めましたか。	5	5	5
事業実施中	5	進捗管理、必要な情報を共有しましたか。	4	4	4
	6	状況の変化に応じて、協議しながら、柔軟な対応ができましたか。	5	5	5
	7	お互いの得意分野や人材・情報を活かし、協力しながら、事業を進めることができましたか。	5	5	5
事業実施後	8	設定した目標は達成できましたか。	4	4	4
	9	協働で事業に取り組んだことで、単独で実施するより、成果を上げることができましたか。	5	5	5
	10	責任の所在や役割分担は適切でしたか。	5	5	5
	11	事業には、当事者、関係者をはじめ、多様な人たちの参加を促すことができましたか。	5	5	5
	12	予算は妥当でしたか。	N	N	N
	13	事業を継続する場合、課題の解決策や今後の方針について、協議を行いましたか。	4	4	4
	14	協働事業に取り組むことによって、組織に何らかの変化をもたらしましたか。	5	5	5

「N（評価項目として適当でない）」を選択した場合は、その理由を記入してください。

番 号	理 由
12	予算がないためフレンドシップコンサート自体が開催できない。

(2) 協働して良かったこと、どのようなことにメリットを感じたかなどを記入してください。

団体にとって	阪南吹奏楽団の存在を認識してもらうことにより、卒業後も吹奏楽を続ける目標を持ってもらえる事で、生涯にわたり吹奏楽を続けてもらえる人材育成に繋がる。
--------	---

行政 にとって	演奏の専門家とともに練習を行うことで、子どもたちの楽器に対する理解を深めることができた。
市民 にとって	顧問の教員だけでは指導しきれない各楽器の演奏方法を楽団員からレクチャーすることにより、理解を深める事ができた。

(3) 協働して課題だと感じたこと、その改善点などを記入してください。

団体 にとって	市民協働として各中学校を訪問する 時期の検討、実施回数が少ない など。
行政 にとって	市民協働の取組を実施するための打合せのタイミング及び学校訪問の日程調整。
市民 にとって	

(4) 今後の具体的な展開 ※団体と事業担当課が話し合い、記載ください。

- ☐ 初年度の場合、今後も協働事業として実施する（☐ 提案事業継続 ☐ 提案事業以外）
☐ 終了する（その理由： ）
☐ 市が単独で実施する（その理由： ）
☐ 団体が単独で実施する（その理由： ）
☐ その他（ ）

■継続する場合

実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など、補足事項を記入してください。

阪南市内の中学校吹奏楽部は、年度の中で7月中旬から下旬にかけて開催されるサラダホールでのサマーコンサートおよび日本吹奏楽連盟主催大阪府吹奏楽コンクール南地区大会が年度内でもっとも大きな活動である。この活動に向けて、中学校へ技術支援を実施していく。

(5) その他

阪南市協働事業評価シート

記入日 2024年3月1日

阪南市協働事業提案制度を活用して協働で実施した事業について、成果と課題を広く共有するために、提起した視点で事業の評価を行ってください。

団 体 名	男里川水系環境保全活動実行委員会（担当者名：成子和弘）
担当課名	河川農水課（担当者名：生田直樹）
事業名	男里川水系環境保全活動
事業の実施期間	令和5年（2023年）4月1日～令和6年（2024年）3月31日
提案の区分	市民自由提案部門
協働の形態	実行委員会・協議会
事業の年度	継続複数年（11年目）

1. 事業の概要

（1）事業の目的（事業を企画した課題、現状、背景についても記入してください）

男里川は、昔から農業用水、工業用水、生活用水として貴重な役割を果たしてきた。また多くの水生生物が生息している。この男里川水系を阪南市の宝として地域の方々がその素晴らしさを実感し、また環境保全活動の重要性を理解し、その環境を孫子の代まで受け継いでもらうことを目的としている。

（2）役割分担（団体、事業担当課それぞれの役割を記入してください）

団 体	男里川水系全域の年1回の一斉清掃 男里川環境保全啓発ポスター募集、そのカレンダー作成と配布 水辺の学校（小学4年生）の男里川での体験学習 親子水生生物観察会（夏休みに実施）
事業担当課	清掃活動への協力要請、ゴミの処分 その他活動に関わる応援

（3）事業費

団 体	約3万円
市	0円
合 計	約3万円

7年目の事業費計	3万円	団体分担 3万円	市分担 0円
8年目の事業費計	3万円	団体分担 3万円	市分担 0円
9年目の事業費計	3万円	団体分担 3万円	市分担 0円
10年目の事業費計	3万円	団体分担 3万円	市分担 0円

(4) 事業の内容

※名称・日時・場所・参加人数・内容・収益など具体的に記入してください。

※活動の写真や資料があれば、添付してください。

① 名称	：男里川水系一斉清掃
② 開催日時	：2月17日（土）10時～12時
③ 開催場所	：男里川水系全域
④ 対象者	：阪南市、泉南市の市民、行政の皆さん
⑤ 参加人数	：77名
⑥ 事業の内容	：男里川の清掃活動
⑦ 収益	：なし
① 名称	：男里川水系の環境啓発ポスター募集・カレンダー作成
② 開催日時	：夏休み
③ 開催場所	：阪南市内
④ 対象者	：阪南市内の小・中・高校生
⑤ 参加人数	：約200名
⑥ 事業内容	：環境啓発を目的としたポスター製作、そのカレンダー印刷配布
⑦ 収益	：なし
① 名称	：男里川水系、水辺の学校
② 開催日時	：9月22日（金）10時～12時
③ 開催場所	：うど橋周辺
④ 対象者	：小学4年生（尾崎小学校）
⑤ 参加人数	：38名
⑥ 事業の内容	：男里川の水生生物の捕獲体験、観察。川の防災、汚染防止学習
⑦ 収益	：なし
① 名称	：夏休み親子水生生物観察会
② 開催日時	：7月15日（土）10時～12時
③ 開催場所	：うど橋付近
④ 対象者	：阪南市市民
⑤ 参加人数	：47名
⑥ 事業の内容	：男里川の水生生物捕獲、捕獲した生物観察会、講師先生の生物解説
⑦ 収益	：なし

- (5) 事業に参加したのは想定した人たちでしたか。参加した人たちの反応はどのようなものでしたか。
※その人たちが組織に何らかの変容があれば、それも交えて記入してください。

- ①男里川水系一斉清掃活動：日頃から環境美化に熱心に取り組んでいる方々、また自治会活動として参加。ひとりではなかなか掃除できないが、一斉にみんなで一緒にやることで成果が上がっている。市長や議員さん役所の方々にも応援いただきとても心強い。
- ②男里川環境啓発ポスター：強制ではないのに、各学校より毎年多くのポスターが寄せられる。環境美化に関心のある子ども達が多いのでとてもうれしい。そのポスターを掲載したカレンダーは学校の先生やご父兄の方々にも大変好評いただいている。
- ③水辺の学校：日頃、男里川で遊ぶ子は皆無に等しい。この活動を通じ、子ども達は身近に素晴らしい自然や生物がいることを実感している。学校の校長先生また担任の先生方にも喜んでいただいている。
- ④夏休み親子水生観察会：地元の人でも、男里川で遊んだり魚釣りをする人はいない。この活動を通じ、川に住む生物についていろいろ知っていただき、男里川にとっても愛着を感じていただいている。

- (6) 協働で事業を進めるにあたり、工夫した点があれば、記入してください。

- ①男里川掃除日とゴミ回収日を同じ日にすることにより、半日ですべての作業が済む。
- ②環境啓発ポスター、教育委員会から市内すべての学校に要請して下さるので助かる。まとめてカレンダーにすると、みんなが作成したポスターを大勢の方々に見てもらえるので好評です。
- ③水辺の学校も親子水生観察会も、民間団体の役員だけでは難しいが、協業で用具の準備や川の防災教育、水の汚染教育などしていただけるのがありがたい。

2. 協働事業の評価

- 下記の評価項目について、それぞれの立場から評価してください。評価基準は5段階としてください。
 - ・大変よくできた（5点）
 - ・よくできた（4点）
 - ・できた（3点）
 - ・あまりできなかった（2点）
 - ・できなかった（1点）
 - ・評価項目として適当でない（N）
- ※「N」を選択した場合は、下記記述欄にその理由を記入してください。

(1) 評価

	評価項目		評価点		
			行政	団体	平均
事業実施	1	協働で実施する事業の課題・背景や目的を両者で確認・共有しましたか。	3	4	3.5
	2	事業の到達目標を協議して設定しましたか。	3	3	3
	3	事業の計画書や工程表を協議して作成しましたか。	3	4	3.5

	4	事業を進めるための役割分担や責任を協議して決めましたか。	4	4	4
事業実施中	5	進捗管理、必要な情報を共有しましたか。	3	4	3.5
	6	状況の変化に応じて、協議しながら、柔軟な対応ができましたか。	3	4	3.5
	7	お互いの得意分野や人材・情報を活かし、協力しながら、事業を進めることができましたか。	4	4	4
事業実施後	8	設定した目標は達成できましたか。	4	4	4
	9	協働で事業に取り組んだことで、単独で実施するより、成果を上げることができましたか。	4	5	4.5
	10	責任の所在や役割分担は適切でしたか。	3	5	4
	11	事業には、当事者、関係者をはじめ、多様な人たちの参加を促すことができましたか。	4	4	4
	12	予算は妥当でしたか。	2	4	3
	13	事業を継続する場合、課題の解決策や今後の方針について、協議を行いましたか。	3	3	3
	14	協働事業に取り組むことによって、組織に何らかの変化をもたらしましたか。	3	4	3.5

「N（評価項目として適当でない）」を選択した場合は、その理由を記入してください。

番 号	理 由

（２）協働して良かったこと、どのようなことにメリットを感じたかなどを記入してください。

団体 にとって	・ 男里川の掃除：ゴミの収集をその日のうちにやってもらえる。 ・ 啓発ポスター：教育委員会から市内すべての学校に要請してもらえる。 ・ 水辺の学校：学校行事として取り組んでもらえる。防災教育をやってもらえる
行政 にとって	活動を通じて環境保全の意識向上や、市内の清掃に参加するきっかけとなった。
市民 にとって	//

(3) 協働して課題だと感じたこと、その改善点などを記入してください。

団体 にとって	10年も続いている事業なので、どれもうまくいっている。特にゴミの収集処理は民間だけでは難しいが協業なのでスムーズに行なえる。
行政 にとって	本市の財政状況の悪化と人員の減少により、活動への支援が十分ではない。
市民 にとって	河川環境の向上につながる。

(4) 今後の具体的な展開 ※団体と事業担当課が話し合い、記載ください。

□継続する

実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など、補足事項を記入してください。

- ・男里川清掃活動：参加者を増やすためにどうすればいいか、役員で考える。
広報紙や回覧板でのPRだけでなく、個人的なつながりや、他の市民活動とのつながりなどを通じ参加者を増やす。
- ・啓発ポスター：より大勢の子供達にポスターを描いてもらえるようにするかよく考える。
Instagramに投稿したが、それをみんなに見てもらう方法を考える。
ポスターを無料で配っているが、財源が少ないので別の方法を考える。
- ・水辺の学校：尾崎小学校の4年生を対象とし、小学生に環境の大切さを伝える。
- ・親子観察会：親子の参加を増やし、及び熱中症対策のため、夏休みの始めに7月に実施

(5) その他

阪南市協働事業評価シート

記入日 2024 年 2 月 28 日

南市協働事業提案制度を活用して協働で実施した事業について、成果と課題を広く共有するために、提起した視点で事業の評価を行ってください。

団 体 名	子どもNPOはらっぱ	（担当者名：川端 智代）
担当課名	学校教育課	（担当者名：花元 英夫）
事業名	子どもの声を聴き共有するラウンドテーブル	
事業の実施期間	平成27年（西暦2015年）4月1日～ 年（ 年） 月 日	
提案の区分	☒ 市民自由提案部門 ☐ 市設定テーマ部門	
協働の形態	☐ 協働委託 ☒ 実行委員会・協議会 ☐ その他（ ）	
事業の年度	☐ 初年度 ☐ 継続2年目 ☐ 継続3年目 ☒ 継続複数年（ 9年目）	

1. 事業の概要

（1）事業の目的（事業を企画した課題、現状、背景についても記入してください）

子どもたちが安心、安全に暮らせる、笑顔あふれるまちづくりを実現するために子どもたちの心に寄り添い、声を聴き、提案団体と行政の情報共有の関係づくりをすることで、子どもの現状や子どもの周りで起きている問題・社会課題の解決を図っていく。

（2）役割分担（団体、事業担当課それぞれの役割を記入してください）

団 体	様々な事業を通じて得る子どもの現状や子どものまわりで起きている問題等の情報を担当課と共有して解決改善を図り、協力して子どもの育ちを支える。
事業担当課	学校教育課、生涯学習推進室、こども支援課、こども政策課の各担当課から市内の子どもへのかかわりを紹介する。団体と連携できる事業などについて検討し、市内の子どもたちの健全な育成につなげる。

（3）事業費

団 体	0	円	費目を記入
市	0	円	費目を記入（（例）補助金、委託費 等）
合 計	0	円	

初年度の事業費計	円	団体分担	円	市分担	円
2年目の事業費計	円	団体分担	円	市分担	円
3年目の事業費計	円	団体分担	円	市分担	円
年目の事業費計	円	団体分担	円	市分担	円

（4）事業の内容

※名称・日時・場所・参加人数・内容・収益など具体的に記入してください。

※活動の写真や資料があれば、添付してください。

①名称	子どもの声を聴き共有するラウンドテーブル
②開催日時	令和5年 9月 6日 16:00~17:00 令和5年12月18日 16:00~17:00
③開催場所	阪南市役所1階 第2会議室(9月)、阪南市教育支援センター会議室(12月)
④対象者	NPO はらっぱ、学校教育課、生涯学習推進室、こども支援課、こども政策課
⑤参加人数	13人
⑥事業の内容	NPO と各課(室)の取組などの共有
⑦収益	なし
⑧その他	

(5) 事業に参加したのは想定した人たちでしたか。参加した人たちの反応はどのようなものでしたか。
※その人たちや組織に何らかの変容があれば、それも交えて記入してください。

想定内。市内の子どもたちの現状について話すことができ、関係を再度深めていくきっかけとなった。

(6) 協働で事業を進めるにあたり、工夫した点があれば、記入してください。

それぞれの取組について共有し、協働できることについて検討を重ねている

団体の様々な事業の中で聞く家庭や地域での子どもたちの様子や問題を担当課に届け、担当課から得た情報を伝えるようにした。団体として、子どもに関わる講座など地域に必要な課題について、市と協働できることを目指し、情報を伝えた。

2. 協働事業の評価

- 下記の評価項目について、それぞれの立場から評価してください。評価基準は5段階としてください。
 - ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点) ・あまりできなかった(2点)
 - ・できなかった(1点) ・評価項目として適当でない(N)
- ※「N」を選択した場合は、下記記述欄にその理由を記入してください。

(1) 評価

	評価項目		評価点		
			行政	団体	平均
事業実施前	1	協働で実施する事業の課題・背景や目的を両者で確認・共有しましたか。	4	4	4
	2	事業の到達目標を協議して設定しましたか。	2	3	3
	3	事業の計画書や工程表を協議して作成しましたか。	2	2	2
	4	事業を進めるための役割分担や責任を協議して決めましたか。	2	2	2
事業実施中	5	進捗管理、必要な情報を共有しましたか。	4	4	4
	6	状況の変化に応じて、協議しながら、柔軟な対応ができましたか。	4	4	4
	7	お互いの得意分野や人材・情報を活かし、協力しながら、事業を進めることができましたか。	4	4	4
事業実施後	8	設定した目標は達成できましたか。	4	4	4
	9	協働で事業に取り組んだことで、単独で実施するより、成果を上げることができましたか。	3	4	4
	10	責任の所在や役割分担は適切でしたか。	3	3	3

11	事業には、当事者、関係者をはじめ、多様な人たちの参加を促すことができましたか。	2	2	2
12	予算は妥当でしたか。	3	2	3
13	事業を継続する場合、課題の解決策や今後の方針について、協議を行いましたか。	3	3	3
14	協働事業に取り組むことによって、組織に何らかの変化をもたらしましたか。	3	3	3

「N（評価項目として適当でない）」を選択した場合は、その理由を記入してください。

番 号	理 由

（２）協働して良かったこと、どのようなことにメリットを感じたかなどを記入してください。

団体 にとって	団体が行う様々な事業を通じて見えてくる子どもの現状や課題を担当課と情報共有し、情報交換ができる関係づくりになっている。地域に必要な課題についての講座の情報を伝えられた。
行政 にとって	お互いの情報交換ができた。今後、様々な課題解決を検討できる関係を深めることができた。
市民 にとって	

（３）協働して課題だと感じたこと、その改善点などを記入してください。

団体 にとって	情報交換の場を持つ意義を感じている。さらに子どもの現状と課題を解決するため、必要な講座の開催などを協働事業として考えていきたい。
行政 にとって	お互いの取組について情報を交換することができたが、課題解決に向けた具体的な今後の共通の目標の設定などにたどり着くことができていない。
市民 にとって	

（４）今後の具体的な展開 ※団体と事業担当課が話し合い、記載ください。

☐ 初年度の場合、今後も協働事業として実施する（☐ 提案事業継続 ☐ 提案事業以外）

☐ 終了する（その理由： ）

☐ 市が単独で実施する（その理由： ）

☐ 団体が単独で実施する（その理由： ）

☐ その他（ ）

■継続する場合

実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など、補足事項を記入してください。

阪南市の子どもの現状を子どもに関係する課と情報共有する意義ある機会となっている。今後も有効な情報交換の場となるよう実施方法を工夫し、課題解決に向けて市民協働で連携できる事業などについても検討していきたい。

（５）その他



阪南市協働事業評価シート

記入日 令和6年2月27日

阪南市協働事業提案制度を活用して協働で実施した事業について、成果と課題を広く共有するために、提起した視点で事業の評価を行ってください。

団 体 名	阪南市盛り上げ隊（浜のおばちゃん家）（担当者名：松本 三奈）
担当課名	未来創生部 シティプロモーション推進課（担当者名：芝崎 麻季・中井 秀哉）
事業名	阪南TV用映像コンテンツ作成業務 「はなてい ch. DX」
事業の実施期間	令和3年（西暦2021年）4月1日～令和6年（西暦2024年）3月31日
提案の区分	☐ 市民自由提案部門 ☒ 市設定テーマ部門（阪南TV（インターネットテレビ））
協働の形態	☒ 協働委託 ☐ 実行委員会・協議会 ☐ その他（ ）
事業の年度	☐ 初年度 ☐ 継続2年目 ☒ 継続3年目 ☐ 継続複数年（ ）年目

1. 事業の概要

（1）事業の目的（事業を企画した課題、現状、背景についても記入してください）

インターネット動画サービスYouTubeを利用し放送を行っている「阪南TV」にて、市政情報を中心とした「お知らせ型」情報発信となっている現状課題を解決するため、多様な民間活力を積極的に活用することで、市の情報発信に加え、地域の話題に特化したコンテンツを多彩に展開し、本市の魅力を効果的・広域的に発信、更なる認知度の向上、交流人口の獲得及びシビックプライドの醸成につなげることを目的とする。

（2）役割分担（団体、事業担当課それぞれの役割を記入してください）

団 体	映像コンテンツの企画提案→市担当者と番組制作会議→撮影→編集→成果品の納品
事業担当課	団体と番組制作会議→成果品の納品確認→阪南TV放送

（3）事業費

団 体	0円 費目を記入
市	499,200円 費目を記入（委託料）
合 計	499,200円

初年度の事業費計	499,200円	団体分担	0円	市分担	499,200円
2年目の事業費計	円	団体分担	円	市分担	円
3年目の事業費計	円	団体分担	円	市分担	円
年目の事業費計	円	団体分担	円	市分担	円

(4) 事業の内容

※名称・日時・場所・参加人数・内容・収益など具体的に記入してください。

※活動の写真や資料があれば、添付してください。

- ①名称 阪南TV用映像コンテンツ はなてい ch.DX
②開催日時 毎月第3火曜日
③開催場所 市内各所
④対象者 阪南TV視聴者
⑤参加人数 取材先関係者、阪南市盛り上げ隊（浜のおばちゃん家）6名
⑥事業の内容
事業目的に沿った内容で、5分程度の映像を月に2本程度作成。
本市ならではの魅力を最大限に引き出し、分かりやすくPRする内容とすること。
市内飲食店の特集、市内観光スポットまたは季節行事に関する特集を3回以上行う。
SDGs 啓発に関する特集を1回以上行う。
市民・市民団体に関する特集を2回以上行う。
市民だけでなく、国内外の幅広いターゲットや分野において活用できるもの。
前例にとらわれず、斬新で独創的な話題性を生み出すもの。
音楽（BGM）、字幕、コンピュータグラフィック、イラスト等を適宜挿入すること。
月1回の番組制作会議を市担当者と団体間で設ける。また、必要に応じ適宜打合せを行う。
⑦収益 0円
⑧その他

(5) 事業に参加したのは想定した人たちでしたか。参加した人たちの反応はどのようなものでしたか。

※その人たちや組織に何らかの変容があれば、それも交えて記入してください。

当初設定していた年間スケジュールどおりとはいかなかったが、変更しながら進めていった結果、出演者は、市内で活躍する人以外に市外からも阪南市に訪れ、撮影に協力してもらうことで、計画していた参加人数となった。また、市関係施設、市内店舗などに、はなてい ch.DX をPRする団体が制作したリーフレットの配架を行い、出演者によってはSNSを利用し、阪南TVのPR活動を自主的に行ってもらうことで、視聴者の新規獲得につながったと考える。具体的には、市民から「阪南TVを見たよ。」と声をかけていただく機会が増えた。

(6) 協働で事業を進めるにあたり、工夫した点があれば、記入してください。

企画や映像については、納品前に両者事前確認をすることで、修正工程を最小限にすることに努めた。また、月1回の番組制作会議では、市担当者と団体間で両者異なる立場からの協働の目的を十分話し合い、行政では取り扱いが難しい業態（飲食店・小売店）への取材・映像編集を団体に行っていただくことで、市内外問わない幅広い新規視聴者層に魅力的な情報を発信できるように意識した。

2. 協働事業の評価

- 下記の評価項目について、それぞれの立場から評価してください。評価基準は5段階としてください。
 - ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点） ・あまりできなかった（2点）
 - ・できなかった（1点） ・評価項目として適当でない（N）
- ※「N」を選択した場合は、下記記述欄にその理由を記入してください。

(1) 評価

		評価項目	評価点		
			行政	団体	平均
事業	1	協働で実施する事業の課題・背景や目的を両者で確認・共有しましたか。	4	3	3.5

	2	事業の到達目標を協議して設定しましたか。	3	3	3
	3	事業の計画書や工程表を協議して作成しましたか。	3	3	3
	4	事業を進めるための役割分担や責任を協議して決めましたか。	4	3	3.5
事業実施中	5	進捗管理、必要な情報を共有しましたか。	4	3	3.5
	6	状況の変化に応じて、協議しながら、柔軟な対応ができましたか。	4	3	3.5
	7	お互いの得意分野や人材・情報を活かし、協力しながら、事業を進めることができましたか。	4	4	4
事業実施後	8	設定した目標は達成できましたか。	5	5	5
	9	協働で事業に取り組んだことで、単独で実施するより、成果を上げることができましたか。	4	4	4
	10	責任の所在や役割分担は適切でしたか。	4	3	3.5
	11	事業には、当事者、関係者をはじめ、多様な人たちの参加を促すことができましたか。	4	3	3.5
	12	予算は妥当でしたか。	3	1	2
	13	事業を継続する場合、課題の解決策や今後の方針について、協議を行いましたか。	3	N	2
	14	協働事業に取り組むことによって、組織に何らかの変化をもたらしましたか。	4	4	4

「N（評価項目として適当でない）」を選択した場合は、その理由を記入してください。

番 号	理 由

（２）協働して良かったこと、どのようなことにメリットを感じたかなどを記入してください。

団体 にとって	行政という信頼性を持った機関や情報網を共有いただきつつ、事業を進められた点。
行政 にとって	阪南 TV の認知度の向上、内容の充実度が増幅したこと。また、コンテンツ内容に飲食店、観光スポットや市民団体の特集を組むことで市民にとっても身近に感じる部分があり、認知度の向上につながった。

市民 にとって	地元に着した話題をバラエティー豊かにコンテンツの制作を行うことで、市民の興味・関心につなげたこと。また、PR の場を設けることで活躍の場・地域活性の創出を図ることができた。
------------	--

(3) 協働して課題だと感じたこと、その改善点などを記入してください。

団体 にとって	企画の縛り（公共性の観点から）や民間では当たり前前のスピード感を持った対応が不十分
行政 にとって	毎月の企画会議でアイデア出しや情報共有を行ったことで、納品日より遅れることなく、タイムリーな情報を阪南 TV でお届けすることができた一方で、 行政と団体は別組織であるため、映像制作に係るスケジュールが見えづらく、共有をタイムリーに行うことが難しい場面があった。 改善点としては、必要があれば追加の会議の設定、行政からのスケジュールのリマインド、互いに事業を進める上での問題点や課題を、早めのタイミングできちんと話し合う必要があったと考える。
市民 にとって	YouTube の再生回数は伸びているものの、月によって変動があるため、市内外問わない幅広い世代へ認知されるよう努める必要がある。 今後は、阪南 TV 内コーナーで行政が連携している企業や市民団体の出演を依頼することで、その関係者に新たに阪南 TV を知ってもらえる機会を増やす工夫が必要である。

(4) 今後の具体的な展開 ※団体と事業担当課が話し合い、記載ください。

☐ 初年度の場合、今後も協働事業として実施する（☐ 提案事業継続 ☐ 提案事業以外）

■ 終了する（その理由：予算の金額に対しての業務量が見合わず、継続が難しいとの結果に至った。）

☐ 市が単独で実施する（その理由：）

☐ 団体が単独で実施する（その理由：）

☐ その他（）

☐ 継続する場合

実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など、補足事項を記入してください。

(5) その他

阪南市協働事業評価シート

記入日 令和6年 3月 1日

阪南市協働事業提案制度を活用して協働で実施した事業について、成果と課題を広く共有するために、提起した視点で事業の評価を行ってください。

団 体 名	ボランティア 桜の園の会 (担当者名: 高橋・澤井)
担当課名	阪南市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進室 (担当者名: 甘庶・中出)
事業名	野外活動広場(桜の園)管理運営事業
事業の実施期間	令和5年(西暦2023年)4月1日～令和6年(2024年)3月31日
提案の区分	☒ 市民自由提案部門 ☐ 市設定テーマ部門
協働の形態	☒ 協働委託 ☐ 実行委員会・協議会 ☐ その他()
事業の年度	☒ 初年度 ☐ 継続2年目 ☐ 継続3年目 ☐ 継続複数年(年目)

1. 事業の概要

(1) 事業の目的(事業を企画した課題、現状、背景についても記入してください)

鳥取池に隣接した公共用地(一部借地)を活用し、公園施設として、様々な目的で来られた市民が堪能して安全に帰っていただけるよう、毎日の見回りや道路・施設の点検・早期の補修を行うとともに、山・池・川・樹木・鳥・植物等豊かな自然を活用し「また来たい」という思いを抱くような雰囲気醸し出していく。

(2) 役割分担(団体、事業担当課それぞれの役割を記入してください)

団 体	来場者の安全で快適な施設利用のため、日常の施設の運営・管理(トイレ・炊事場・かまどの清掃、草刈、枝切り、給水施設への水の搬送、林道の補修等)
事業担当課	テントサイト、かまど、キャンプファイヤー場利用者の予約受付窓口

(3) 事業費

団 体	0 円
市	166,094 円 委託費
合 計	166,094 円

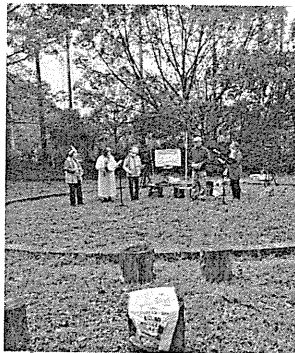
初年度の事業費計	166,094円	団体分担	0円	市分担	166,094円
2年目の事業費計	円	団体分担	円	市分担	円
3年目の事業費計	円	団体分担	円	市分担	円
年目の事業費計	円	団体分担	円	市分担	円

(4) 事業の内容

※名称・日時・場所・参加人数・内容・収益など具体的に記入してください。

※活動の写真や資料があれば、添付してください。

- ①名称 桜の園の会
②開催日時 令和5年4月1日～令和6年3月31日
③開催場所 野外活動広場 桜の園
④対象者 桜の園利用者
⑤参加人数 桜の園の会会員19名
⑥事業の内容 桜の園の日常の施設の運営・管理
(トイレ・炊事場・かまどの清掃、草刈、枝切り、給水施設への水の搬送、林道の補修等)
⑦収益 0円
⑧その他
*毎日の見回り ・トイレの清掃及びかまどの残飯、灰等の確認、落とし物の確認等
*毎週一回 市役所から水道水の運搬(毎回400～500L)
*一斉草刈り 年4回 及び随時 *枝切り(随時)
*消毒 年3回(4月・6月・9月)
*道路の掃除と整備(来田採石場より上の道路)
*年2回のハイキング(今年度は2回とも雨天で中止)
*年2回のミニフェスタ(利用者を中心に、場所は桑畑の総合グラウンド)
2023/4/23 及び 2023/10/29 に実施(朗読・楽器演奏・相撲甚句等)



ミニフェスタの開催場所



死んでいたイノシシ対応



野生のヤマユリ発見



塩づくり体験

- (5) 事業に参加したのは想定した人たちでしたか。参加した人たちの反応はどのようなものでしたか。
※その人たちや組織に何らかの変容があれば、それも交えて記入してください。

・令和5年4月1日から令和6年2月29日

毎日の見回りで確認できたのはテント数 293、利用者 808 人となっている。3 月分を加えると昨年とほぼ同数になる。日帰り等で確認できていない人数を入れると利用者数は、統計数をはるかに上回る。

利用者には癒しや体調の維持を求めに定期的に参加される一定の利用者がおられる。自然のなかでのキャンプ生活が心身に程良い影響を及ぼし、自然からの恵みである森林セラピーを享受されている。

また、開発が著しいキャンプギア、かけがえのないオンリーワンのキャンプ用具を楽しむ利用者、或いは鳥の鳴き声や姿を観察する人、フユイチゴを採り、自然のヤマユリ等を観察して楽しむ人たちがいる。

2023 年 6 月頃から、新型コロナで休業していた多くのキャンプ場が営業を再開され、桜の園の利用者数は若干減少した傾向が見られますが、ハイキングでの立ち寄り、駐車・トイレ休憩の場所として桜の園は紀伊アルプスを利用する人たちの安全を確保する要所になっている。大きなトラブルは聞かれず、望ましい雰囲気公園が管理されている。

- (6) 協働で事業を進めるにあたり、工夫した点があれば、記入してください。

- ・週一度の水運搬時、鍵のやり取りの際に市の担当者と情報交換、かなり頻度の高い細かいやり取りが出来る。
- ・「自然と本の会」「はらっぱ」の活動に協力し、「桜の園で遊ぼう」等の行事にスタッフとして桜の園会員が参加。具体には井関川の水生生物展示、イノシシの骨（頭）の展示・点火体験、ナタ体験等、日常生活では体験できない機会を作った。
- ・桜の老木化が進んでいるため、大阪緑の基金を活用した緑化樹配付事業に応募し、配付されるヤマザクラ（5本）を令和6年2月29日に植樹した。

2. 協働事業の評価

- ・下記の評価項目について、それぞれの立場から評価してください。評価基準は5段階としてください。
 - ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点） ・あまりできなかった（2点）
 - ・できなかった（1点） ・評価項目として適当でない（N）
- ※「N」を選択した場合は、下記記述欄にその理由を記入してください。

(1) 評価

	評価項目		評価点		
			行政	団体	平均
事業実施前	1	協働で実施する事業の課題・背景や目的を両者で確認・共有しましたか。	4	4	4
	2	事業の到達目標を協議して設定しましたか。	3	4	3.5
	3	事業の計画書や工程表を協議して作成しましたか。	3	3	3
	4	事業を進めるための役割分担や責任を協議して決めましたか。	4	4	4
事業実施中	5	進捗管理、必要な情報を共有しましたか。	4	4	4
	6	状況の変化に応じて、協議しながら、柔軟な対応ができましたか。	3	4	3.5
	7	お互いの得意分野や人材・情報を活かし、協力しながら、事業を進めることができましたか。	3	4	3.5
事業実施後	8	設定した目標は達成できましたか。	3	4	3.5
	9	協働で事業に取り組んだことで、単独で実施するより、成果を上げることができましたか。	5	4	4.5
	10	責任の所在や役割分担は適切でしたか。	5	5	5
	11	事業には、当事者、関係者をはじめ、多様な人たちの参加を促すことができましたか。	3	5	4
	12	予算は妥当でしたか。	2	2	2
	13	事業を継続する場合、課題の解決策や今後の方針について、協議を行いましたか。	3	4	3.5
	14	協働事業に取り組むことによって、組織に何らかの変化をもたらしましたか。	3	4	3.5

「N（評価項目として適当でない）」を選択した場合は、その理由を記入してください。

番 号	理 由

(2) 協働して良かったこと、どのようなことにメリットを感じたかなどを記入してください。

団体 にとって	ボランティアとしての意識をどの様に高めていくか？ 同時にボランティア活動には限界があります。インフラの改善や作業の内容をより高めるための共通の認識が広がった様に思います。
------------	--

行政 にとって	日常的に、給水施設への水の搬入や、施設の運営・維持管理が十分行われていること。
市民 にとって	山間部の施設でありながら、日常的にトイレの維持管理や巡回など、施設の管理が行き届いていること。

(3) 協働して課題だと感じたこと、その改善点などを記入してください。

団体 にとって	① 公園の利用、テントサイト予約場所と実際にテントを張る場所の乖離、公園ではあるが夕方以降はキャンプ場になる。湿気が多く日当たりの悪い場所が敬遠され、予約場所と異なるサイトや広場に設置が見られる。ある程度実態に即して考えざるをえない。 ② 緊急連絡に固定電話も含め考えていく。 ③ インフラ、道路の整備について、森林税等活用できないか。でこぼこ道・狭隘故に溝に落ちる、接触等のトラブルがあります。道路状況が悪いので「行きたくない」という声が聞かれます。少しずつでも改善をお願いします。
行政 にとって	山間部であり、林道の維持管理や緊急連絡の手段が限られていること。 水の運搬や施設の維持管理、施設の老朽化などに対する運営費用が十分でないこと。
市民 にとって	緊急連絡が十分できないこと アクセス道路の（ガタガタだ）苦情をときおり聞くことがある。

(4) 今後の具体的な展開 ※団体と事業担当課が話し合い、記載ください。

■初年度の場合、今後も協働事業として実施する（■提案事業継続 □提案事業以外）

□終了する（その理由： _____）

□市が単独で実施する（その理由： _____）

□団体が単独で実施する（その理由： _____）

□その他（ _____）

■継続する場合

実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など、補足事項を記入してください。

「桜の園」の優れた点は、市に申請さえすればいつでも火を扱える場所があり、自炊や宿泊等防災の拠点にも成り得る。自由に火と関われる場所は市内ではここだけ。市はこの公園を瞳の様に大切にしていける義務があります。財政の議論に陥ることなく、公の責任としてしっかりと守っていくという議論がないといずれすたれていくのは目に見えています。市民にも分かち合いながら、しかも市がしっかりと絡むことで「大阪さくらの名所 100 選」に漏れない場所が確保されると思います。幸い多額の費用を要するわけでもなく、早い時期に条例化して蘇らせる必要があるかと思います。

駐車料金や施設利用料を徴収すれば、建物の維持管理・補修・人件費等に一層の費用が掛かり、また利用者数が激減すると思います。

(5) その他

特記事項なし